渾沌

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この話の山は「儵・忽」と「渾沌」という名前の意味、「嘗試みに〜ん（ためしに〜してみよう）」、そして善意の穴あけがなぜ渾沌を死なせたのか**です。

あらすじ＝南海の帝の儵と北海の帝の忽は、あるとき中央の帝の渾沌の土地で出会い、たいそう手厚くもてなされた。二人は恩返しをしようと相談し、「人にはみな七つの穴があって、見る・聞く・食べる・息をするのに使うが、渾沌にだけはない。ためしにあけてみよう」と、一日に一つずつ穴をあけていく。すると七日目に、渾沌は死んでしまった。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

南海（なんかい）の帝（てい）を①儵（しゅく）と為（な）し、北海（ほくかい）の帝を②忽（こつ）と為し、中央（ちゅうあう）の帝を③渾沌（こんとん）と為す。儵と忽と、④時（とき）に⑤相与（あひとも）に渾沌の地（ち）に遇（あ）ふ。渾沌⑥之（これ）を待（たい）すること甚（はなは）だ善（よ）し。儵と忽と渾沌の⑦徳（とく）に⑧報（むく）いんことを謀（はか）りて曰（い）はく、「人（ひと）皆（みな）⑨七竅（しちけう）有（あ）りて、⑩以（もつ）て視聴食息（しちやうしよくそく）す。⑪此（こ）れ独（ひと）り有ること無（な）し。⑫嘗試（こころ）みに⑬之を鑿（うが）たん」と。⑭日（ひ）に一竅（いつけう）を鑿ち、⑮七日（なぬか）にして渾沌死（し）す。

語注　帝＝天帝。ここでは南海・北海・中央の地をそれぞれ治める神。　儵・忽・渾沌＝それぞれ南海・北海・中央の帝の名。　渾沌の地＝渾沌が治める土地。　曰はく＝言うことには。　鑿つ＝穴をあける。　※古い本の引用には「儵」を「倏」と書くものもある（同じ意味の字）。　※書き下し文の送り仮名や、「時に」の訳し方は教科書によって少しちがうことがある。お使いの教科書に合わせてください。

A　語句の意味と読み（1〜7）

（1）①「儵（しゅく）と為（な）し」の「儵」と、②「忽（こつ）」は帝の名前だが、もともと同じような意味をもつ字である。二字に共通する意味を書け。

（2）③「渾沌（こんとん）」の意味を書け。

（3）④「時（とき）に」の意味を書け。

（4）⑥「之（これ）を待（たい）すること甚（はなは）だ善（よ）し」の「待す」の意味を書け。

（5）⑦「徳（とく）」は、ここではどのような意味か。

（6）⑨「七竅（しちけう）」の読みを現代仮名遣いの平仮名で書け。また、具体的には何を指すか。

（7）⑩「以（もつ）て視聴食息（しちやうしよくそく）す」の「視聴食息」の意味を書け。

B　句法（8〜13）

（8）①「儵（しゅく）と為（な）し」の「為す」は、ここではどのような意味か。

（9）⑧「報（むく）いんことを謀（はか）りて」の部分の白文は「謀報渾沌之徳」である。書き下し文に合うように、返り点をつけよ。

（10）⑩「以（もつ）て視聴食息（しちやうしよくそく）す」の「以て」は、どのような働きをしているか。

（11）⑪「此（こ）れ独（ひと）り有ること無（な）し」は、前の「人皆七竅有りて」と対になる言い方である。「人皆〜、此れ独り〜」はどのような関係を表しているか。「独り」の意味もあわせて書け。

（12）⑫「嘗試（こころ）みに」と、⑬「之を鑿（うが）たん」の「ん」とが組んだ「嘗試みに〜ん」は、どのような意味を表す言い方か。

（13）⑮「七日（なぬか）にして渾沌死（し）す」の白文は「七日而渾沌死」である。「而」は書き下し文でどのように扱われているか。また、ここでの働きを書け。

C　主語・指す内容（14〜17）

(14) ⑥「之（これ）を待（たい）すること甚（はなは）だ善（よ）し」で、もてなしたのは誰か。また「之」は誰を指すか。

(15) ⑩「以（もつ）て」は「それで」の意味だが、「それ」にあたるものは何か。

(16) ⑪「此（こ）れ」と、⑬「之を鑿（うが）たん」の「之」は、それぞれ誰を指すか。

(17) ⑭「日（ひ）に一竅（いつけう）を鑿ち」の主語は誰か。

D　口語訳（18〜21）

(18) ④⑤を含む「儵と忽と、時に相与に渾沌の地に遇ふ」を口語訳せよ。

(19) ⑥を含む「渾沌之を待すること甚だ善し」を口語訳せよ。

(20) ⑨⑩⑪を含む「人皆七竅有りて、以て視聴食息す。此れ独り有ること無し」を口語訳せよ。

(21) ⑭⑮を含む「日に一竅を鑿ち、七日にして渾沌死す」を口語訳せよ。

E　内容・記述（22〜25）

（22）⑧「報（むく）いんことを謀（はか）りて」とあるが、儵と忽は、どうすることが渾沌への恩返しになると考えたのか。本文に即して説明せよ。

（23）⑮「七日（なぬか）にして渾沌死（し）す」とあるが、渾沌が死んでしまったのはなぜだと考えられるか。③「渾沌」という名の意味にふれて説明せよ。

（24）①「儵」・②「忽」と③「渾沌」の名前は、この話の中で、それぞれ何をたとえていると考えられるか。

（25）⑧で二人が考えた善意の恩返しが、⑮の結末を招いた。この話は、人が良かれと思ってすることについて、どのようなことを伝えているか。四十字以内で書け。

F　文学史・思想（26〜28）

（26）この話を収める『荘子』の荘子（荘周）は、老子とともに諸子百家の何という学派を代表するか。また、老子と荘子の思想をあわせて何と呼ぶか。

（27）⑮の結末にこめられた荘子の考え方を表す、「よけいな手を加えず、あるがままにまかせる」という意味の四字熟語を書け。

（28）③「渾沌」の話にちなむ「混沌（こんとん）」という語は、現代ではどのような意味で使われるか。短い例文も書け。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「儵」「忽」はどちらも「たちまち」。せわしなく、すばやいものの名。反対に「渾沌」は、区別のない、まじり合ったままの姿。名前の意味が、そのまま話を読むカギになる。 **❷「嘗試みに〜ん」＝「ためしに〜してみよう」。**「嘗」を「かつて」と読まない。「人皆〜、此れ独り〜」は「みんな〜なのに、これだけは〜」の対比。 **❸善意の穴あけが渾沌を死なせた＝人の手（人為）が自然をこわす。**記述問題の答えは、この話がしめす「無為自然（よけいな手を加えない）」の考えに集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる